

認知症高齢者への理解を 深めるために

☎ 地域包括支援センター (Tel.64-1516)

◆「オレンジ教室」を行っています

「オレンジ教室」は、小学生向けの認知症サポーター養成講座です。認知症という病気になっても、自分らしく誰もが住み慣れた地域で暮らし続けられるみやま市を目指して、市内の小中学校でオレンジ教室を開催しています。今年度は、水上小学校、二川小学校、桜舞館小学校で開催しました。

キャラバン・メイトの皆さんが講師となりグループワークを行いました



「オレンジ教室」を受講した児童の感想(抜粋)

- ・お年寄りによくある病気で脳の病気だとわかった。
- ・同じことを何度も言ったり、すぐ忘れる病気。
- ・誰がなってもおかしくない病気。
- ・認知症でも全部忘れるわけではない。
- ・自分のことを忘れられると、とっても悲しいなと思った。
- ・最初は認知症のことを知らなかったけど、よくわかってよかった。
- ・自分が認知症の人に何をしたらいいのかがわかって、うれしかった。
- ・私も認知症の人を助けたいなと思った。
- ・認知症になった人には、笑顔でしゃべったりするといいとわかった。
- ・困っている人がいたら、やさしく声をかけて「どうしたの?」と聞いてあげたい。
- ・おじいちゃんおばあちゃんに今日のことをいっぱい話して、もしも知っている人が認知症になったら、優しくしたい。



高齢者と児童との交流

各小学校では、総合学習の時間に高齢者の施設を訪問し、授業やオレンジ教室で学んだことを活かして高齢者の方々と交流を行っています。



学びを地域の人たちに発表

学習したことや交流を通して気づいたことなどを、児童間で話し合っまとめ、保護者や地域の人達に発表する機会を設けている小学校もあります。

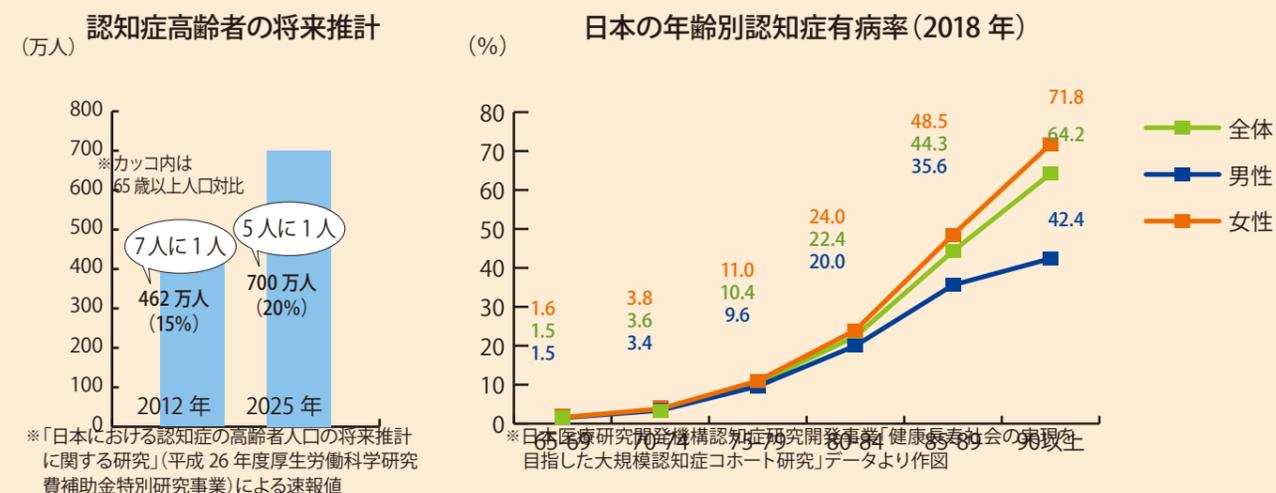


◆あなたも認知症サポーターになりませんか

地域包括支援センターでは、市民向けの講座も開催しており、どなたでも受講できます(1講座 90分)。職場での研修、地域や仲間同士の勉強会など、10人以上の集まりに講師を派遣しています。
地域包括支援センター (Tel.64-1516) へお気軽に問い合わせください。

◆認知症の人の数が増えています

認知症はだれもがなりうる病気です。家族や身近な人が認知症になる可能性があります。下のグラフのように、2012年(平成24年)では認知症の人の数は約462万人、2025年(令和7年)には約700万人、65歳以上に対する認知症高齢者の割合は、約7人に1人から5人に1人となり、増加していくと推計されています。



◆キャラバン・メイトの活躍

認知症キャラバン・メイトとは、認知症の正しい知識と具体的な対応方法を学んだ人たちで、「認知症サポーター養成講座」を開催し、講師となる人です。現在みやま市内では18人のキャラバン・メイトが活躍しています。



キャラバン・メイトの皆さん

◆認知症サポーターとは

認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きる、「共生」を目指して、みやま市では認知症サポーター養成講座を開催しています。認知症サポーター養成講座を受け、認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者のことを「認知症サポーター」といいます。友人や家族に学んだ知識を伝えたり、認知症になった人や家族の気持ちを理解するように努め、自分のできる範囲で活動します。講座を受講すると、「認知症サポーター」の証として、「オレンジリング」をお渡します。



▲養成講座教材「認知症を学び地域で支えよう」

▼オレンジリング

